

近世城郭のルーツ 小牧山城

石垣がかたる信長の城づくり
主郭地区発掘調査から



小牧山城(国指定史跡 小牧山)は天正12年(1584)、小牧・長久手の合戦で徳川家康の本陣となったことで知られていますが、それを遡ること21年前の永禄6年(1563)に織田信長が初めて自らの手で築き、岐阜に移るまでの4年間居城とした城でもあります。
史跡整備に伴う近年の発掘調査によりあきらかになりつつある、信長が築いた当時の小牧山城の姿を紹介します。

信長天下統一への過程と城郭

年代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か?
弘治 元年(1555)	22歳	清須城入城	清須城:石垣なし	×
永禄 3年(1560)	27歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄 6年(1563)	30歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城:石垣構築	○
永禄10年(1567)	34歳	稲葉山城攻略、岐阜城と改め小牧山城から移る	岐阜城(千畳敷):巨石石積	改修
天正 4年(1576)	43歳	安土城築城開始	安土城:総石垣	○
天正10年(1582)	49歳	本能寺の変		



永禄期小牧山城推定想像図

信長の小牧山城の姿は?

小牧山城で見つかった石垣は、安土城の石垣に先行し、信長が既に尾張段階で城郭に石垣を採用するという意図を持って築いていることがわかりました。

山頂には何らかの建物があったと考えられますが、現在その位置には小牧市歴史館があり、当時の様子を知ることはできません。ただ、発掘調査では瓦が出土していないことから、建造物があったとしても瓦葺の建物ではなかったと考えられます。

これまで信長の小牧山城は、わずか4年の居城期間から、美濃攻めのための簡易な砦と考えられていました。しかし、城の南に城下町が計画的に整備されていたという調査結果と併せて、清須から居城と町を一度に移転させるという、信長の「尾張国首都移転構想」とも言うべき壮大な計画が存在したことがわかれるのです。

小牧山城主郭推定復元模型(小牧市歴史館にて展示中)



信長の野望と小牧山城

「城」という字が「土」と「成」できているように、信長以前の城は土を掘ったり(=堀)、盛り上げたり(=土塁)した戦闘・防御のための施設でした。その施設に信長は石垣を採用し(小牧山城)、瓦を葺いた建物を建て(岐阜城)、その集大成として安土城を作り上げたのです。信長は城に対して単なる戦闘施設という枠を超え、政治機能を持ち、権力・権威の象徴としての建築複合体、つまりモニュメントとしての役割を持たせたのでしょう。信長により城は「戦う城」から「見せる城」へ劇的に変貌しました。信長が作り出した新しい城の概念はその後近世城郭に継承され、我々がイメージする城へと続くのです。

(仮称)史跡センターについて

小牧市では、小牧山の麓に平成30年春の完成を目指して、史跡小牧山の歴史や城郭、自然、発掘調査の最新情報などについて学ぶことのできる(仮称)史跡センターの整備を進めています。

問合先 小牧市教育委員会 小牧山課
〒485-8650 愛知県小牧市堀の内三丁目1番地
TEL(0568)76-1623